

第 48 回近畿ブロック高校生国際交流セミナー

in 奈良市ならまちセンター

私たちのスマホが世界の貧困を、紛争を、性暴力まで引き起こしている!?



12月21日(土)近畿ブロック高校生国際交流セミナーが奈良市ならまちセンターで開催され、本校から8名の生徒が参加しました。近畿地区の高校から集まった19名の生徒が5グループに分かれ、午前は貿易が私たちの生活に与える影響を疑似体験できる「貿易ゲーム」が行われました。また、午後のワークショップでは、私たちの生活に欠かせないスマホが、世界の貧困問題や紛争、さらには性暴力の遠因になっているという衝撃の事実について学びました。最後に、持続可能で平和な世界の実現に向けて、普段スマホを利用する高校生ができることとは何だろうかと考え、奈良市を後にしました。参加した生徒にとっても、引率した教員にとっても、セミナー後に幾ばくかの余韻を残す、忘れられない経験となりました。

第 48 回近畿ブロック高校生国際交流セミナーで学んだこと ～振り返りシートより～

今回のセミナーを通して学んだことは主に3つです。まず1つ目は、コミュニケーション能力の必要性です。同じグループの人たちが大人しい人ばかりで、その上自分も黙って話が進みません。自分から話し始めることにより、その大切さをしみじみと感じさせられました。2つ目は聞く力です。話すことも大事ですが、自分が話してばかりでは話がまとまりません。人の意見をしっかり聞いて、本質を理解しなければなりません。3つ目は広い視野を持つことです。今回、日々使っているスマホと世界の国々との関わりについて、何も知らないことに気づきました。目の前のスマホだけに囚われるのではなく、世の中全体を広く見るというような「モノの見方」は今後大事になると思います。



今回のセミナーで初めて貿易ゲームをしました。グループを国に見立てたのですが、自分たちの国にはほとんど資源がなく、不利だと感じました。しかし、他の国に交渉しに行ったり、資源が見つかったりして儲けることができました。悪い商売をしている国もありましたが、貿易ゲームを通して実際にこんな国もあるのだと実感することができました。グループの中で協力して楽しく話し合いができました。休憩時には、他のグループにいた留学生と英語で会話をすることができました。自分から「一緒に話そう」と声をかけました。会話の中で聞いたことがない単語が出てきて意味と聞くと、簡単な英語で説明してくれました。授業で習ったことを生かして、さらに英語で話す勇気も身につきました。また、コンゴ民主共和国は遠い国であり、日常生活であまり関係のない国だと思っていましたが、私たちがいつも使うスマホと深い関係があると知りました。新しい機種 of スマホが出たらすぐに買い換えるのではなく、使えるところまで使い切ろうと思いました。そうすることで、コンゴ民主共和国で悲しんだり、苦しい思いをしたりする人が減ると思いました。



今回のセミナーで、初めて他府県の高校生と協力して貿易ゲームをしたり、話し合ったりしました。最初はうまく話せるか不安な部分も多かったのですが、相手から話しかけてくれ、話す機会を作ってくれました。来年も参加できれば、自分から声をかけて積極的にコミュニケーションをとっていきたいです。貿易ゲーム後の講義やワークショップでは、話し合いを楽しみながらも、世界で起きている貧困や紛争とスマホとの関係の恐ろしさを知りました。スマホを製造する過程で、誰かの生活が奪われていて、世界では誰かが幸せにあると誰かが苦しむというサイクルが続いているのだと思います。この世界の現状をいろんな人に伝えていきたいです。

